

診療所からみた地域医療

【天狗の里 診療日誌】

設楽町つく診療所
高木 健太郎
平成24年7月26日 東栄町役場
支える医療研究所委知支部第6回発表

地域の現状

診療所
医師1・看護師2・事務2。
1日平均患者数25人。

地域を支える社会資源
診療所・社協(ケアマネ・ヘルパー)・
デイサービス・訪問看護・訪問入浴。

人口の変化

人口1392人(平成24年4月)
合併時(17年10月)と比べて
128人(8.4%)の減。

高齢化率45.1%。
(設楽町全体で42.5%)

診療所の活動

活動スローガン
「ここに暮らしたいをかたちに」

家で老いて死ぬということとは、
この地域に力があることの証明。

在宅医療・在宅看取り

介護・看護の社会資源と、互いに尊重しあい、小回りを利かせての連携。
毎年5人程度の在宅看取り。

在宅死は人生最後の大事な仕事。
周囲に多くのことを教えてくれる。



ロコモ予防教室

- 足助病院さんの協力指導のもとに昨年度から開催。
- 今年度より住民主体での運営に。

地域への運動療法の広がり。

地域住民が主役

- 共通した「志」
- 地域について、自分達で考え、そして行動すること。

人も金もない中で、どう老いていくか。
地域をどう軟着陸させていくか。

田舎の意地

- ないならないなりに頑張る、田舎もん根性を応援したい。
- 街に負けないものはいくつもある。意地や頑張りの「志」に惚れる。現場技術職にも子供にも伝わる。

地域づくりのための医療

- 「顔をみるコミュニケーションが必要ですか？」
- 薬を出すだけの医療ではない。医療は地域づくりの社会資源。
- 現場をみて、その中から大切なものを探し、どうか育ててください。

主役は地域・住民

- 「安心」できる医療とは地域みずからが力をつけてこそできるもの。
- 力をつけ、生まれる魅力で現場職や子供を惹きこめる、そんな地域になってほしい。そのために働く。
- 医療は「志」ある地域にこそ残すもの。

成功するせぬは、もとより問うところではない。それによって世から謗(せんぼう)されようと褒められようと、自分に関することではない。自分は志を持つ。志士の尊ぶところはなんであろう。心を高く清らかにそびえさせて、自ら成すことではないか。

吉田松陰